

笑いで済むではない

先号は夏バテ気味で、さすがの頑固爺も「笑うしかない」と萎えていたが、秋風が吹いてようやく気力回復。忙しい皆様が「えっ、何？ 大した問題ではないではないか」とやり過ぎしてしまっていることに「大変だ、このままでは子孫が不幸になる、笑いで済むはなごぞー」七叫ぶ。

ゆとり教育の遺物漢字配当表

「学力調査で出題ミス 習っていない可能性」という意味不明の見出し記事が目についた。短い文なのでそのまま載せる。

★都教育委員会は18日、都内の公立中学の2年生を対象に、先月2日に実施した都独自の学力調査「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の国語の問題に出題ミスがあったと発表した。漢字の読みを聞く4問のうち、「担(かた)み」で「本望(ほんもう)」「省(かえり)みる」の3問について、まだ習っていない可能性があった。

漢字学習は学校で行われる。文科省は「学年別漢字配当表」を定めている。学年ごとに教わる漢字が決められているのだ。まず「読み」から教わり、「書き」は次の学年で覚えればよいことになってきた。たとえば「建物」。

漢字配当を誰が始めたのか。日本語は優れた言語である。漢字の読みにひら仮名で振り仮名がつけられる。英語にも中国語にも振り仮名はない。

私は小学校五、六年の時、少年少女向けの雑誌「譚海」を読んだ。古本屋で一冊十円だった。探偵も説、西部劇など何もありの雑誌である。著者は横溝正史、野村胡堂、江戸川乱歩、山岡荘八、山中峯太郎など。駆け出しの作家の凌ぎの場であった。子供向けだが作者は漢字を自由に使った。出版社は漢字に全て振り仮名をつけた。

「五%の水溶液一〇〇グラム」の意味が解らない。問題が解けない時間のもたである。理科嫌いになった原因は国語と算数の基礎ができていない点にある。

学習指導要領に照らすと、漢字自体は小学校で習うが、出題された読み方については、高校や中学3年までに学習させることになっており、出題者が勘違いしたという。都教委は「学力を分析するデータとして不適切」として、この3問を除外した上で、正答率などを算出する方針。(八月十九日・産経新聞)★

文科省、教育委員会、教育庁そして現場の学校は今だに、「こんなこと」を大まじめに行っている。笑いごとではない。

これが大問題であることを解ってもらうため、もう一つ引用する。先号東武動物公園発・田口静香の一文である。

田口は「読み」と「書き」の学年別配当の弊害を指摘している。新聞記事は「読み方」も学年別配当を行っていることを報じている。

「建」と「物」をワンセットで覚えられないので「建築物」のイメージができない。家やビルを「立物」と書いて違和感を覚えない。つまり漢字に対する感性が育たない。大人になっても平気で「気づく」「過慣」「新切」「暗気」など書くようになる。

漢字は「音」だけでなく「意味」を伝える。ひとまとまりの意味を持つ言葉を漢字とかなに分けることで理解を分断することになる。学習の負担軽減どころか、むしろ漢字への興味を失わせ習得しにくくさせてしまう。

「建」と「物」をワンセットで覚えられないので「建築物」のイメージができない。家やビルを「立物」と書いて違和感を覚えない。つまり漢字に対する感性が育たない。大人になっても平気で「気づく」「過慣」「新切」「暗気」など書くようになる。

漢字は「音」だけでなく「意味」を伝える。ひとまとまりの意味を持つ言葉を漢字とかなに分けることで理解を分断することになる。学習の負担軽減どころか、むしろ漢字への興味を失わせ習得しにくくさせてしまう。

田口は「読み」と「書き」の学年別配当の弊害を指摘している。新聞記事は「読み方」も学年別配当を行っていることを報じている。

理科離れの原因は国語力低下

小学六年生の八〇%が「理科が好きでよく解る」と答えているが、中学三年生は六〇%に減っているという調査結果が出た。

原因ははっきりしている。小学校の理科の授業は実験で魔法のように色が変わり煙が出るのを見ることのできるからである。

国は「理系」の拡充を目指している。国立大学は文系学部を廃止して理系一本に絞る方向にある(文系は私大に任せろ)そうだ。

識者は「幼少期の工作や砂遊びなど、生活体験の不足が理科離れにつながっている。子供の探求心をくすぐる工夫が必要」と述べているがピンと外れている。

「五%の水溶液一〇〇グラム」の必要水と食塩の質量を答えよ。

この問題の正答率は四六%。半数以上の生徒が正解できていない。この問題が解けない半数以上の生徒を理科好きにするのに「幼少期に不足していた工作をさせる」「探求心をくすぐる」は無効である。

理科嫌いになった原因は国語と算数の基礎ができていない点にある。

「五%の水溶液一〇〇グラム」の意味が解らない。問題が解けない時間のもたである。

子供が夢中になっているゲームは子供の頭にスピードと暴力を容れる。言葉はない。頭に言葉がふえないから思考力が育たない。文章を理解して考えを進めることができない。

かつて子供は外で遊び、親の手伝いをし、それ以外の時間は本を読んだ。読書好きでない子供でも先生や親が「読め」と言う本は最低限で決めることができる大人になった。

現在、学校によっては読書の時間をとっている。文科省は道徳の授業をするようだが、優れた教科書は期待できない。ならば日本と世界の文学作品を読ませればよい。原文そのまま。漢字に仮名を振り、難解な用語は解説をつける。

昔の子は「論語」などを素読した。意味も解らないうちから振り仮名つきの漢文を読んだ。それを書き写して覚えた。

知覧の特攻兵の手紙を見ると感動する。内容もさることながら二十歳に満たない青少年の字のうまいこと。文章の優れていること！

ければ答が出てくるはずがない(正解は水九五グラムに食塩五グラムである)。

なぜ問題が解らないか。言葉が解らない。学校の国語軽視、漢字配当表制度のせいである。もちろん算数、数学も理科には大事であるが、%などの割合や方程式などの数式も、教科書や教師の言葉による説明がなければ理解できない。理科離れは漢字離れが原因なのである。

理系の優秀な学生をふやしたいなら、中高生の理科嫌いを減らしたいなら、科学博物館や宇宙ロケットになじませて効果はない。小学生の時から漢字と漢字を使つた文章にたつぷり、どっぶり浸からせることである。

一人二人ではなく全員が、私など足元にも及ばない立派な手紙を書いている。当時の学校教育が優れていたであろう。

日本が技術大国になれたのも、日本民族が優秀だと評価されるのも、こうした過去の国語重視の学校教育と子供の時から無制限に漢字に接する環境があったからである。

子供のため、百年後の国のためである。

「漢字配当表」制度を全廃する。

道徳の授業は読書の時間にする。

本は原作に限る。漢字に振り仮名。やさしく書き改めるのは不可。

この改革は総理大臣にしかできない。

これが問題になると国会の前で「安保拡大法案」に反対するデモが行われたように反対運動が起きる。大学教授はまた安倍総理を「ばか」と罵り、子供の人権を守る会や母親たち、なんでも反対の民主党共産党の面々が大声を張り上げる。子供のため、国のためこの大問題の大改革は安倍総理にしかできない。

安倍総理！もう一つ大仕事を

安倍総理！もう一つ大仕事を

経営管理講座 染谷和巳 321